

B-GROOW

NewsLetter



Message From SORA

B-GROOW (ビーグロー) の空でございます。

みなさまはこの夏、どこかに出かけられましたか。わたくしはタイに行っていました。修行僧が家々をまわり女性や子どもたちから喜捨を受ける姿が印象に残っているのですが、タイで浸透している上座部仏教の教えの表れだと聞きました。また、タイの占いで、生まれた曜日が重要視されていることを知りました。

暑さはまだ続くようですが、夜空の月を眺めると秋の気配を感じます。異文化に触れることの良さとともに、四季折々の美しさを大切にする繊細な日本文化もまた良いものだなと感じます。

Vol.54



空直美

企業防災について考える

日本では、9月1日は「防災の日」、9月は「防災月間」と定められています。毎日のように災害についてのニュースを耳にする昨今、企業ができる対策について考えます。

■ 企業が取り組む災害対策

企業が取り組む災害対策は『企業防災』と呼ばれています。一般家庭の災害対策と違い、災害の被害を最小限に抑える「防災」と被災後の経営活動の維持と早期復旧を目的とする「事業継続計画(BCP)」の2つの観点で考える必要があります。

■ 企業防災の実際

内閣府の調査によると、企業の防災対策は、地震・感染症・洪水などの特定事象を想定した策定が主流ですが、オールハザード型の策定も増加しています。また、BCPの策定率は、ライフライン関連では、運輸業・郵便業66.2%、情報通信業53.8%、電気・ガス・熱供給業・水道業49.8%、医療・福祉41.3%、生活に直結する小売業では34.7%となっています。

■ 企業防災の取り組み事例等

■ A社 (宮城県所在、食品・水産加工業、販売25店舗・製造3工場、従業員約200名)

顧客や従業員などの人命を第一優先に、防災・BCP両面での強化活動を展開

- 各種災害を想定した防災対応・初動対応・調達先対応等の演習訓練の実施。全従業員が参加できるよう単年度において計182回の訓練を実施。
- 仕入れ先に対し、半期ごとに自然災害による影響確認を行い、品質・納期・価格等に加え事業継続計画の確認・製造拠点調査等を実施

■ B社 (熊本県所在、総合電機設備業、熊本・福岡・鹿児島・京都に拠点、従業員約130名)

ライフラインを守る『ヒト・モノ』主眼の防災対策を強化

- 全国震度5弱以上の地震発生時、安否メールが配信され、従業員本人・家族・家屋の状況が自動集計されるシステムを導入、年12回程の安否確認訓練を実施
- 社屋の耐震を強化
- 従業員とその家族の避難所として社屋に食料・ベッド・トイレ等の備蓄品を最低3日分確保
- 県内支社と本社機能を代替設定
- 所在地以外の自治体との広域連携を図る

また、災害発生時には、社員とその家族の安全確保、訓練(安否確認・帰宅・参集等)の開始や見直し、リスクに対する基本的な対応方針の策定、生じるリスクの認識と業務への影響の分析等の取り組みが有効です。

■ おわりに

日本は世界的にも自然災害の多い国であり、今後、大規模地震が発生する可能性が非常に高いと言われています。防災対策のみならず、BCPの策定には経営戦略の一環として取り組むことが望ましいといえるでしょう。しかし、BCP策定には一般的に6カ月～1年の期間が必要になるため、中小企業では『事業継続力強化計画』の策定支援を利用することも有用です。計画策定後に国の認定を受けることで税制優遇や金融支援、補助金の加点等の支援を受けることができます。この機会に、防災への取り組みを見直してみたいかがでしょうか。

参考

内閣府 令和5年度企業の事業継続及び防災の取組に関する実態調査 (概要)
https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kiyou/pdf/chosa_240529.pdf
内閣府 企業の防災対策・事業継続強化にむけて
https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kiyou/pdf/pamphlet_231212.pdf

内閣府 各企業の取組事例
https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kiyou/pdf/jirei_231212.pdf

中小企業庁 事業継続力強化計画
<https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/antei/bousai/keizokuryoku.html>



(コンサルティングアシスタント 香月裕美)

デザイン思考は教育現場にまで広がり、中学校の総合の授業などにも取り入れられています。今回はこれからますます必須となっていく「デザイン思考」について考察します。

■ デザイン思考とは

デザイン思考とは、ユーザー中心のアプローチを重視する問題解決の手法です。観察や共感を通じて、ユーザーの潜在的なニーズを発見し、革新的な解決策を生み出します。

■ デザイン思考が求められる背景

ビジネス環境が急速に変化するとともにテクノロジーの進化やグローバル化により顧客のニーズや市場の要求は多様化しており、それに対応するための新しい発想が求められています。

そのため、単なる論理的な解決策ではなく、ユーザーの視点を取り入れた創造的な問題解決手法が重視されるようになりました。

■ デザイン思考のプロセスと具体例

デザイン思考は以下のプロセスをとります。この5つのプロセスは必ずしも順番に行う必要はなく、同時並行でも、行ったり来たりでもよいとされています。



製品開発にデザイン思考を活用する企業として知られているのがAppleです。左の表は、iPodが生み出された際の流れを示しています。

■ デザイン思考の例 : Apple iPodの開発

共感	選んだ音楽をいつでもどこでも聴きたい
定義	すべての音楽をポケットに入れて持ち運ぶ音楽の聴き方にイノベーションをもたらす
アイデア創出	円盤型のマウスによる画面操作 PCのデータとの自動同期
試作	軽量化、大音量化が必要
テスト	ボタン操作は2回までなどの改善点が明らかに

■ おわりに

いかがでしたでしょうか。今回記事を書く中で、「MONO-COTO INNOVATION」という、全国の中高生が学校の枠を超えてチームを組み、デザイン思考を活用したアイデア創造に挑戦する4泊5日のプログラムが開催されていることを知りました。将来を担う若者たちに負けず、私たちも色々なことに目を向け、挑戦する必要があると感じます。

(アソシエイトコンサルタント 平田千佳)

株式会社 B-GROOW

〒813-0017

福岡県福岡市東区香椎照葉3-3-1-2825

TEL 092-405-2769 FAX 092-405-3579

Useful Information

-Vol.1-



みなさま、日々の業務お疲れさまです。今月号から新たにスタートするシリーズ“Useful Information”では、ビジネスや日常生活における「有益な情報」を、ジャンルを問わずお届けしてまいります。

防災月間の9月のテーマは『エレベーター内の閉じ込め』です。

エレベーター内の閉じ込め

今年に入り、日本各地で地震が頻発している状況ですが、地震発生時に懸念されるのが、停電等による「エレベーター内の閉じ込め」です。

2019年に起きた大阪北部地震では、6万6000基ものエレベーターが緊急停止し、300件以上もの閉じ込めが起きました。救出までに5時間以上要したケースもあるようです。

閉じ込めを回避するために

「地震時管制運転装置」という安全装置がついているエレベーターでは、センサーにより一定の揺れを感知した場合は、自動的に最寄りの階で停止し、扉が開く仕組みになっています。安全装置が搭載されていない場合は、次のような対応を試してみましょう。

- 揺れを感じたら、行先階ボタンを全て押して、最初に停止した階で速やかに降りる。
- 閉じ込められた場合は、非常用ボタンを押して、外部と連絡を取る。状況を正確に通報し、救助を要請する。
- 停電が発生した場合は、非常用照明が点灯する。エレベーター内から無理に脱出しようとせず、救助を待つ。

エレベーター用防災キャビネット

エレベーター内に設置されている、イラストのような三角形のボックスを見たことはないでしょうか？このボックスには、エレベーター内に閉じ込められた人が、救助を待つまでに使用できる水や食料、救急セット、ライト、携帯トイレ等が備え付けられています。国土交通省ではこの「エレベーター用防災用キャビネット」の設置を推進しています。身の回りのエレベーターに設置されているかを日頃から確認されておくことも、防災意識向上につながります。



(チーフコンサルタント・社会保険労務士 久保京子)

編集後記

みなさまは『フェーズフリー』という言葉をご存知でしょうか。日常時と非常時を区別しないという新しい防災の考え方です。普段活用している商品・サービス・アイデアを非常時にも役立つため、いつのまにか備えをすることができます。ローリングストックもその一例ですが、最近では『フェーズフリー』の考え方を取り入れた公園や施設もあるようです。防災対策が日常の中にあることは安心につながりますし、とても心強いですね。(編集担当 香月裕美)

Mail sora@b-grow.com

HP <https://www.b-grow.com>